

TOPICS

1

産学官金の連携による
「岡山発・森林循環経済」の実現を目指す

岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現に向け、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）では、地域資源を基盤とした持続可能な産業と社会の構築を推進しています。今回は、本学グリーンイノベーションセンター（GIC）を中核に展開する「森林循環経済」の実装に向けた一連の取り組みを紹介します。

GICでは、カーボンニュートラルの実現と地域課題の解決を目指して、真庭市をはじめとする岡山県内の地方自治体、関連企業、金融機関と連携し、木造建築普及に向けた技術開発や、林業・木材産業の持続的な生産性向上・高度化のためのDXを活用した研究を推進するとともに、地域循環型経済の構築に向けた社会実装に取り組んでいます。今後は、2025年9月に真庭市の協力により設置した真庭サテライトキャンパスも活用して、実証研究、人材育成、地域企業との協働を一体的に展開し、地域に根ざしたイノベーション創出を推進していきます。

その中で、本学は2025年12月に公開シンポジウム「岡山発、森林循環経済の実現に向けて」を開催。参加者はオンラインを含め、企業・自治体・大学関係者など約250人にのぼりました。

本シンポジウムでは、小宮山宏氏（一般社団法人プラチナ構想ネットワーク会長／東京大学第28代総長）による「森林循環経済の実現で日本を『プラチナ社会』へ」と題した特別講演の後、阿部匡伸理事・上席副学長が「木造建築を通じた脱炭素社会の共創に向けて—岡山大学の志」と題した基調講演を行いました。その後、森林資源を活用した地域循環型経済の実現に向け、木造建築の推進や県産材の活用、林業活性化などをテーマに議論が行われ、産学官金連携による「岡山モデル」構築の必要性が共有されました。



サテライトキャンパスの看板を上掲する
那須学長（右）と太田真庭市長
【オープニングセレモニー（2025年9月15日）】

オープニングセレモニーに引き続き5日間の日程で始まった
ワークショップで、講義を聞き入る学生ら

さらに2026年3月には、日経地方創生フォーラムにおいて本学的那須保友学長が登壇し、自治体・企業・金融機関とともに地域課題の解決に向けた議論を展開しました。ここでは、木造建築による脱炭素化や森林資源の活用を軸とした地域経済の活性化、そして産学官連携の重要性が強く打ち出されました。同フォーラムには、伊原木隆太岡山県知事も登壇し、「皆さんと協力しながら林業サイクルを着実に回していきたい」と述べるなど、県としても本取り組みを積極的に推進していく姿勢が示されました。

こうした取り組みは、専門WEBメディア「森林循環経済」において広く発信され、岡山における先進的な取り組みとして全国的な注目を集めています。本学では、今後も真庭サテライトキャンパスを核とした地域での取り組みを基盤に、研究開発と人材育成を展開して、森林循環経済の実現を推進し、地域創生とカーボンニュートラルの両立に貢献していきます。

【シンポジウム「岡山発 森林循環経済に向けて」(2025年12月22日)】



小宮山氏による特別講演



パネルディスカッション

【日経地方創生フォーラム「木造のまちづくりを創出し、森林循環経済の実現に向けて」(2026年3月30日)】

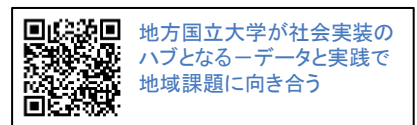
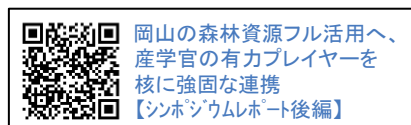
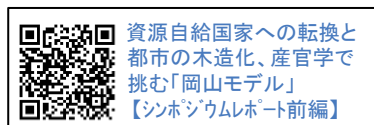


パネルディスカッションに登壇する那須学長



森林循環経済を担う人材の輩出と、産学官連携の重要性について語る那須学長

WEBメディア「森林循環経済」の記事は、以下の二次元コードからアクセスいただけます。



○那須保友学長のコメント

本学では、地域の豊かな森林資源(特にヒノキの国内生産量は全国1位)に着目し、地方自治体、産業界、金融機関と連携して、「森林循環経済」の実現に向けた取り組みを推進しています。シンポジウムやフォーラムを通じて、産学官金が連携しながら持続可能な社会の構築に向けた方向性を共有できたことは、大きな成果です。今後は、研究成果の社会実装を加速し、人材育成と産業振興を一体的に進めていきます。

本学は、J-PEAKS事業のもと、これからも地域とともに歩みを強力に進めます。どうぞご期待ください。



TOPICS
2

医療圏を越えた医薬品の共同調達等に関する合意書の締結～大学病院主導による医薬品の安定確保体制の構築～

本学と島根大学、岡山赤十字病院、岡山市立総合医療センターの4機関は、「岡山・島根地域フォーミュラー推進協議会」において、質の高い、経済的な医薬品の安定供給を重点的に確保するため、医療圏を越えた医薬品の共同調達等に関する合意書を締結。県域を超えた国立大学病院同士の医薬品の共同調達は全国初の取り組みです。本学は今後も、既存の構造を改革し、地域中核・特色ある研究大学として、地域の安定的な医薬品の供給に貢献していきます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1550.html

TOPICS
3

国立大学病院が主導した医薬品の共同配送を開始～配送の効率化と環境負荷軽減による持続可能な体制の構築～

岡山大学病院と岡山市立市民病院は、複数の医薬品卸業者の配送物を配送業者1社が一括して納入する医薬品の共同配送を開始します。本取り組みは、国立大学病院と公的病院による全国初の試みであり、重複配送による車両運用や人的負担の増大、配送コストの増加といった課題を解決するとともに、環境負荷低減を図るものです。三者連携による体制構築により、医薬品の安定供給と効率化、そして従来の業界の慣例を見直しつつ、社会のWell-beingの向上を推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1549.html

TOPICS
4

総合技術部と分子科学研究所が合同研修会～研究基盤を支える技術人材の高度化と連携強化を推進～



本学総合技術部は、分子科学研究所において、技術職員の高度化および相互連携の強化を目的とした合同研修会を開催しました。両機関における研究伴走体制や特色ある技術業務、研究設備の運用・維持管理、安全管理、人材育成の取り組みなどについて情報共有を行い、業務報告や技術発表、施設見学を通じて活発な意見交換と実践的な技術交流を実施しました。本学は今後も、関係機関との連携を強化し、研究基盤を支える高度な技術人材の育成と技術力の高度化を推進します。

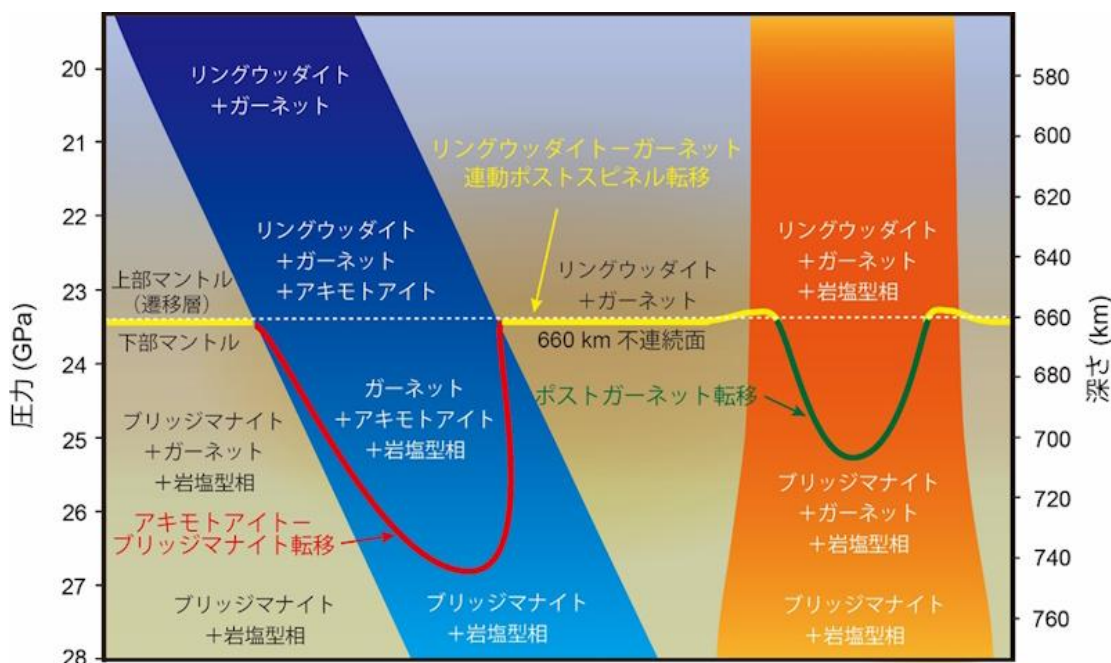
参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15408.html

TOPICS

5

地球内部660kmの境界形成はガーネットが支配していた

本学高等先鋭研究院を構成する惑星物質研究所の石井貴之准教授らの研究チームは、高温高圧実験により、マントル主要鉱物ガーネットの相転移が、660km不連続面の形成を支配していることを示しました。従来の主要鉱物リングウッダイトの分解では説明できなかった660km不連続面の複雑な凹凸構造を、ガーネットの存在を考慮することにより、冷たい沈み込み帯、温かいホットブリューム、平均的なマントル温度のいずれでも、観測される660km不連続面の凹凸を一貫して説明できることが明らかになりました。本学の若手研究者である石井准教授の今後の研究活動にご期待ください。

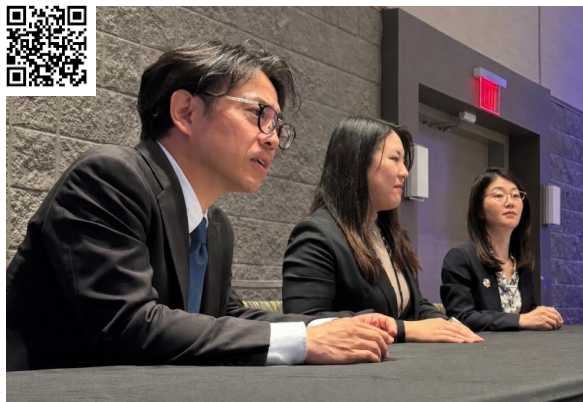


参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1555.html

TOPICS

6

横井篤文副学長が文部科学省参与に任命されNAFSA 2026で日本政府代表として登壇 ～AIと多文化共修による国際教育の新展開を発信～



横井篤文副学長(グローバル・エンゲージメント担当)は、米国オーランドで開催された世界最大級の国際教育会議「NAFSA 2026」において、文部科学省参与として登壇しました。日本政府を代表し、Japan SessionおよびGlobal Outlook Spotlight Panelに参加し、本学が推進する多文化共修の取り組みをもとに、AIを活用した教育モデルを紹介するとともに、国際高等教育の在り方について議論しました。本学は今後も、国際的ネットワークとの連携を通じて、多文化共修による持続可能な社会の実現に貢献していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15421.html

TOPICS

7

ウェアラブルカメラで田植え作業を記録 岡山県久米南町で地域農業の実践知を動画収録



本学と岡山理科大学の研究者によるプロジェクトチームは、岡山県久米南町で田植え作業をウェアラブルカメラなどで動画収録しました。作業者の視点や動き、作業工程、周囲との関係性を多角的に記録し、地域農業に蓄積された暗黙知の可視化を目指す取り組みです。高齢化や担い手不足が進む中、経験に依存する技術を次世代へ継承することが課題となっており、収録データは今後、分析やデジタルアーカイブ化、作業マニュアル化、人材育成に活用されます。地域中核・特色ある研究大学として、持続可能な地域農業と新たな担い手モデルの構築に貢献します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15405.html

TOPICS

8

「光創ネクサス」第8回ミーティングを開催～光でつながる知と未来：異分野融合を目指す研究拠点～

本学は、津島キャンパスの共創イノベーションラボにおいて「光創ネクサス」第8回ミーティングを開催しました。「光創ネクサス」は光を研究手段とする多様な分野の研究者が連携し、新たな研究テーマ創出や応用展開を目指す拠点です。当日は学内外から講師を招き、人工光合成、超高速分光、光×AI、ナノ操作化学、光による細胞制御などの最先端研究に関する講演が行われました。講演後には活発な議論や自由討論が行われ、大学間連携による新たな共同研究の可能性が探られるなど、異分野融合を促進する有意義な機会となりました。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15374.html

TOPICS

9

岡山大学発ベンチャー・株式会社ハイドロヴィーナスが総務省「ICTスタートアップリーグ」に採択

岡山大学発ベンチャーである株式会社ハイドロヴィーナスが、総務省の「ICTスタートアップリーグ」に採択されました。本事業は、ICT分野におけるスタートアップの成長を支援し、研究開発から社会実装までを一体的に推進することを目的としています。同社は水素関連技術を基盤にした革新的な取組を進めており、今後の事業化・事業拡大が期待されます。本学は今後も、大学発ベンチャーの創出・成長支援を通じて、研究成果の社会実装を推進するとともに、地域から新たなイノベーションを生み出すエコシステムの形成に貢献します。



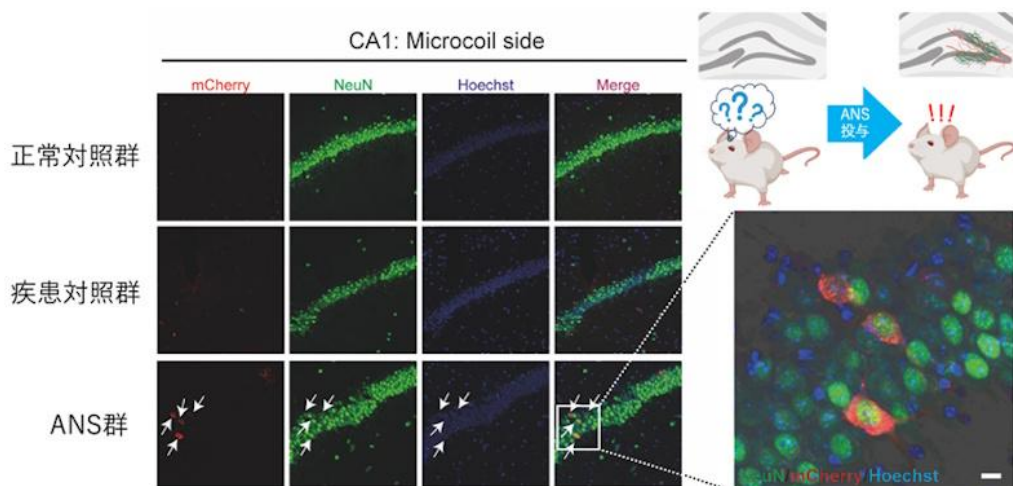
 **Hydro-VENUS**



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15422.html

TOPICS
10脳内のグリア細胞から神経細胞に直接変える治療法
血管性認知症モデルで海馬のダメージを抑制

本学と富山大学の研究グループは、脳内のグリア細胞を神経細胞へ直接変換する新たな遺伝子治療法を、血管性認知症モデルマウスで実証しました。神経誘導に関わる3種の転写因子(*Ascl1*、*NeuroD1*、*Sox2*)を導入することで、記憶に関わる海馬の炎症を抑制し、ダメージを軽減するとともに、新たな神経細胞が生成され、認知機能の改善傾向が確認されました。本研究は、認知症を始めとした神経疾患の治療において、画期的な「再生医療(遺伝子治療)」の実現に向けた大きな一歩であり、認知症によって失われた記憶や認知機能を回復させる、革新的な新薬や治療法の開発へとつながることが期待されます。本学は今後も、Well-being社会の実現に向けた研究活動を推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1548.html

TOPICS
11

オタワ大学と岡山大学が情報交換セッションを開催

本学共創イノベーションラボ(KIBINOVE、きびのべ)にて、カナダ・オタワ大学との情報交換セッションが開催され、教職員や学生ら35人以上が参加しました。両大学はこれまで医学分野(産科婦人科学)における研究交流や教員交流を進めてきました。今回の訪問は研究・教育の新たな連携強化を目的としており、双方の学部長らが研究活動や教育プログラムを紹介するとともに、ネットワークでは活発な意見交換が行われ、共同研究や学生交流の可能性が議論されました。本学は今後も国際的な連携を通じて、研究力強化とグローバル人材育成を推進します。

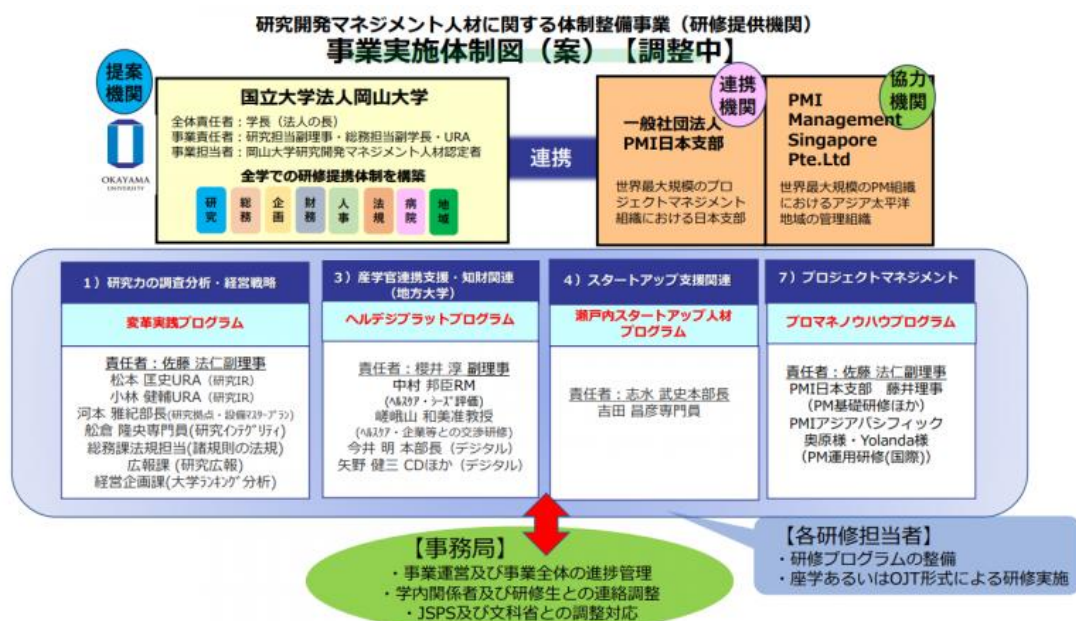


参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15410.html

TOPICS
12

研究開発マネジメント人材の育成と運用にかかる研修生のマッチングのための意見交換を島根大学と実施

本学は、島根大学と研究開発マネジメント人材育成に関する研修生マッチングのための意見交換を実施しました。本取り組みは文部科学省「研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業」の一環で、今回は、本年10月からの本事業で初めての研修生受け入れにあたり、派遣元である島根大学側の希望内容と受入先である本学側の研修内容のすり合わせや目指すべき点、さらには研究開発マネジメント人材の将来像等について意見交換を行い、両機関の連携を強化することなどを目的に開催されました。本学では今後もJ-PEAKSを活用し、研究開発マネジメント人材の高度化などをより一層進め、新たな研究・イノベーション創出を通じた社会変革を推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15404.html

TOPICS
13

岡山大学惑星物質研究所の芳野極教授が2026年度 JpGUフェローを受賞、授賞式に出席



本学高等先鋭研究院を構成する惑星物質研究所の芳野極教授が、「日本地球惑星科学連合（JpGU）2026年大会」において、2026年度JpGUフェローとして表彰され、授賞式に出席しました。JpGUフェローは地球惑星科学分野で顕著な功績を挙げた研究者や、本分野の発展に多大な貢献をした者に授与される名誉ある称号です。芳野教授は、高温高圧実験により地球や惑星内部物質の電気伝導度や物質輸送過程を解明し、地磁気変動やマントル対流の理解に貢献してきました。長年の国際的研究実績も評価されての受賞であり、今後の研究発展や人材育成への貢献が期待されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15402.html

TOPICS
14

岡山大学において地域中核・特色ある研究大学の取り組み「学内のガス回収ラインが設置されていないMRI装置のヘリウム回収」を実施



本学は、学内のガス回収ラインが設置されていないMRI装置からヘリウムガスを回収する取り組み（フェーズ1）を開始しました。本事業は「中四国・播磨ヘリウムリサイクル事業ネットワーク（HeReNet）」の一環で、MRIからのガス回収は同ネットワークで初の試みです。海外依存の高いヘリウム資源の安定確保とリサイクル体制構築により、研究基盤強化や経済安全保障にも貢献する重要な取り組みです。本学は今後も、開かれた地域中核・特色ある研究大学として、関係機関との連携を強化し、取り組みを推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15399.html

TOPICS
15

北陸先端科学技術大学院大学と産学官連携に関する意見交換会を開催～「Matching HUB」の知見を活用し、広域産学官連携の可能性を探る～

北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）の関係者が本学を訪問し、産学官連携に関する意見交換会が開催されました。JAISTからは、産学官金が連携するイベント「Matching HUB」の取り組みと成果が紹介され、本学からは、「岡山デジタルイノベーション創出プラットフォーム（OI-Start）」が中心となった取り組みや成果を共有するとともに、「岡山版Matching HUB」の展開可能性や瀬戸内地域を視野に入れた広域産学官連携の可能性について議論しました。本学は今後も、産学官金の多様な主体との連携をさらに強化し、研究成果の社会実装や地域課題の解決を加速します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15436.html

TOPICS
16

クライオ電子顕微鏡による単粒子解析法のハンズオントレーニング講習会を開催

本学高等先鋭研究院を構成する異分野基礎科学研究所国際構造生物学研究センターは、「クライオ電子顕微鏡による単粒子解析法」のハンズオントレーニング講習会を開催。CryoSPARCやChimeraXを用いたタンパク質構造解析の実習と講義が行われました。初心者にも配慮した体験型プログラムにより理解を深める機会となりました。本学ではJ-PEAKSのもと、クライオ電子顕微鏡を中心とした研究者や技術職員の交流によるノウハウの共有や高度化、ネットワークの拡大に向けて、取り組みを推進します。



クライオ電子顕微鏡

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id714.html

クライオトモグラフィー用クライオプラズマFIB-SEM装置「Arctis」

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14736.html

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15429.html

TOPICS
17岡山大学総合技術部「スキルマップ」を公開
～技術職員の専門技術提供への取り組み～

本学総合技術部は、教育研究系技術職員約90人の専門技術を可視化した「スキルマップ」を公開しました。スキルマップは「技術分類」で整理し、担当機器や日常業務に関連した技術分類を可視化することで、業務依頼時に本部関係部署と連携しながら、対応可能な技術職員を確認、調整することが可能です。同部は多様な専門技術を持つ人材で構成されており、今後は研究設備機器共用システム(CFPOU)を活用し、機器情報と技術分類を連携させた取り組みを行うことで、より高度な技術提供と研究マネジメント体制を強化します。



岡山大学 総合技術部
Comprehensive Technical Solutions
Okayama University



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15430.html

TOPICS
18

「2027年度入学生からの授業料適正化」の方針を決定

本学は「岡山大学研究大学宣言」に基づき、世界と伍し地域の中核となる大学へ進化する中で、授業料において「価格競争」ではなく、教育研究水準や生活環境を含む「高付加価値」で選ばれるブランド確立が不可欠だと考えています。将来にわたり学生のための教育費用を十分に確保し、教育・研究環境をさらに改善・向上させるため、授業料適正化の方針を決定。2027年度入学生から授業料を改定します(日本人学生642,960円、留学生1,339,500円)。なお在学生の変更はありません。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15459.html

TOPICS
19OI-Startが経済産業省「地域DX推進ラボ」に選定
～産学官金の力で岡山地域のDXを加速～

おかやまデジタルイノベーション創出
プラットフォーム

本学が事務局を務める「おかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム(OI-Start)」の取り組みが、経済産業省および独立行政法人情報処理推進機構(IPA)による「地域DX推進ラボ」に選定されました。「地域DX推進ラボ」はIoTやAI等の先進技術を活用し、地域課題の解決や地方経済の発展を目指す取り組みを支援する制度です。OI-Startは約180機関が参画する強固な産学官金連携プラットフォームであり、「DXサンライズおかやま」との連携により企業のDXビジョン策定から実証・事業化までを一体的に支援できる体制が整備されている点が高く評価されました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15395.html

TOPICS
20台湾工業技術研究院(ITRI)ならびに医療機器メーカー
INTAI / REMEX社訪問団が本学を訪問
医療ロボット・ナビゲーション技術で意見交換

本学は、台湾工業技術研究院(ITRI)ならびに台湾の医療機器メーカーであるINTAI Technology / REMEX Medical社の訪問団を受け入れ、「脊椎手術ナビゲーションシステム」などの台湾における最先端の医療技術開発の取り組みを中心に、今後の共同研究や技術連携の可能性について意見交換を実施しました。本学がJ-PEAKSにおいて推進する医工連携ロボット技術開発と、台湾の高度な医療機器開発・製造ノウハウが密接に結びつき、今後の国際的な共同研究や技術発展が期待されます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15394.html

TOPICS
21

米子工業高等専門学校において地域中核・特色ある研究大学の取り組み「中四国・播磨HeReNet」の回収および供給(フェーズ2)を実施



本学は、米子工業高等専門学校において「中四国・播磨ヘリウムリサイクル事業ネットワーク(HeReNet)」のフェーズ2にあたる「ヘリウムガスの回収および液体ヘリウムの供給」を初めて実施。本学があらかじめ専用の容器に充填した約90Lの液体ヘリウムを米子高専に運搬し、NMR装置に充填し、同時に回収されたガスをポンプで本学へ回収しました。本取り組みは資源リサイクルとコスト低減を両立するもので、ヘリウムの安定供給や研究基盤強化、経済安全保障にも寄与します。引き続き、本学と参画機関らの取り組みにご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15393.html

TOPICS
22「知」から新たな価値を生み出すことのできる研究開発
マネジメント人材の育成：岡山大学URAモデルなど特色
ある取り組みを生かした研修提供に向けたキックオフ
ミーティングを開催

本学は、研究開発マネジメント人材育成事業のキックオフミーティングを開催しました。本会合は文部科学省「研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業」における、10月からの研修生受入れに向けたミッションの再確認や関係者の意識合わせ等を目的として開催。会合では研修内容全体の概要を共有するとともに、効率・効果的な研修方法や自走化を見据えた課題・改善策について意見交換が行われました。本学は、今後も知から新たな価値を創出できるナレッジワーカーの育成を推進し、組織改革や社会変革を加速します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15388.html

TOPICS
23

スマホ“解剖”体験で半導体の世界を体感！ ～次世代IT人材育成セミナー スマホの構造とIT産業 の今を開催～

本学では、次世代のIT人材育成を目的とした産学連携プロジェクトの一環として、DS(データサイエンス)部の学生が主体的に企画・運営し、「次世代IT人材育成セミナー」を開催しました。本セミナーでは電子計測器・半導体製造装置の大手企業である株式会社アドバンテストから講師を招き、スマートフォンを実際に分解し、内部構造や部品の役割を学ぶとともに、半導体産業の現状についても学びました。本学では、IT・エレクトロニクス分野や革新材料分野を最重点研究分野に設定しており、最先端の研究・技術開発および人材育成も力強く推進します。



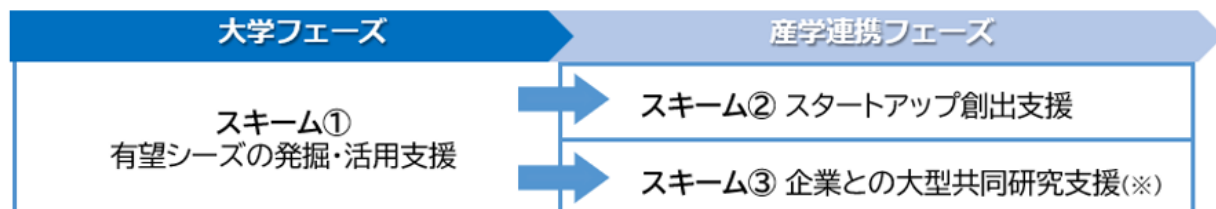
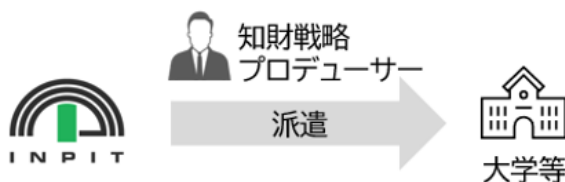
参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15376.html

TOPICS
24

岡山大学研究・イノベーション共創機構医療系本部が 「大学等の研究成果の社会実装に向けた知財支援事業 (iAca)」に採択

本学の研究・イノベーション共創機構医療系本部は、独立行政法人工業所有権情報・研修館(INPIT)の令和8年度「大学等の研究成果の社会実装に向けた知財支援事業(iAca)」スキーム①(有望シーズの発掘・活用支援)に採択されました。

今回の採択では、本学学術研究院医歯薬学域が有する医療機器分野の研究シーズが支援対象であり、知的財産マネジメントの専門家(知財戦略プロデューサー)の支援を受け、研究成果の迅速な社会実装を促進することで、イノベーションの創出を目指します。本学の最重点研究分野の一つであるヘルスケア領域において、外部専門家の知見を取り入れた知的財産支援体制の強化を図るとともに、研究成果を社会へと展開するための実効性の高い知財戦略の構築を進めます。



※共同研究受入額が年間1000万円以上

- ✓ 公募は年1回。支援期間は**約11カ月**。連続した継続支援も可能
- ✓ 必要な日数分だけ、柔軟な支援が可能(支援期間ごとに最大25～30日)
- ✓ 支援開始時に支援計画を作成。継続支援には支援計画の達成が必要



出典 INPITホームページ iAcaサイト https://www.inpit.go.jp/katsuyo/ip_academia.haken/index.html

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15417.html

TOPICS
25

AI時代の計算基盤を活かした産学官連携「オープンイノベーションMatchUp vol.5」を開催

本学が事務局を務めるおかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム(OI-Start)は、「オープンイノベーションMatchUp vol.5」を開催しました。「AI時代の計算基盤を活かした産学官連携」をテーマに、企業・研究者・学生・自治体関係者など200人以上が参加しました。イベントでは、研究開発DXや量子コンピュータの最新動向について講演が実施されたほか、J-PEAKS事業等を通じて本学に整備した最新のHPC(高性能計算)環境などを紹介しました。本学は今後も、産学官連携を推進し、研究成果を活用したイノベーションを創出します。

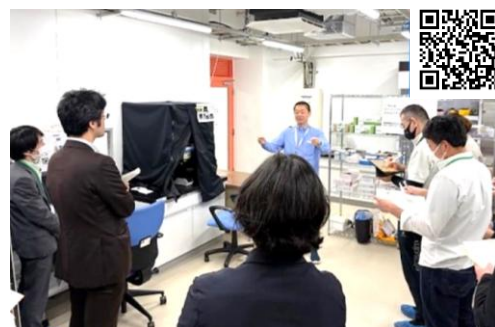


参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15433.html

TOPICS
26

令和8年度TCカレッジ入学式、CFC業務見学に総合技術部の技術職員5人が参加～本学のミッションである「高度な知の創成・創発・継承」を支える高度技術人財の育成～

本学総合技術部の技術職員5人が、東京科学大学で開催された「TCカレッジ入学式」ならびにオリエンテーションとコアファシリティセンター(CFC)の業務見学に参加しました。TCカレッジは高度技術専門人財「テクニカルコンダクター(TC)」の育成を目的とした教育プログラムで、本学はサテライト校として医工系コースを開講しています。参加者は先端機器の紹介や運営体制について説明を受け、専門性向上への意欲を高めました。本学は今後もTCカレッジなどを活用して、技術職員らの高度化を戦略的に強化促進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15358.html

TOPICS
27

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)シンポジウム～女性教員のキャリア形成を支える岡山大学の現在地とこれから～」を開催

本学は、女性研究者のキャリア形成をテーマとしたシンポジウムを開催し、約110人が参加しました。基調講演ではダイバーシティ推進の国際動向や日本の現状、取り組み事例が紹介されるとともに、本学への期待が示されました。さらに「女性の登用による大学の活性化」をテーマにパネルディスカッションが実施され、女性教員登用にかかる課題や今後の展望について意見交換がされました。本学は今後も、J-PEAKSも活用し、教育・研究支援や人材育成を推進するとともに、ダイバーシティ&インクルージョンのさらなる推進を目指します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15367.html

TOPICS
28世界初、心不全やパーキンソン病の早期診断へ新たな
画像検査技術を開発～岡山大学参画の国際共同研究
成果が国際学術誌に掲載～

本学高等先鋭研究院を構成する未来医療創発研究所の能勢直子助教、樋口隆弘教授らを中心とする日独国際共同研究グループは、心臓の働きを調節する交感神経をPET画像で可視化できる新しい検査薬を開発しました。本研究では、人で初めて安全性・体内分布・被ばく線量を評価し、臨床応用への第一歩を示しました。これにより、従来は早期発見が難しかった心疾患やパーキンソン病、神経系腫瘍などの早期診断や治療方針決定への貢献が期待されます。本学は今後も、最重点研究分野であるヘルスケア領域の研究を推進し、Well-being社会の実現へ貢献します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1558.html

TOPICS
29超伝導が拓く未来社会：J-PEAKSシナジーセッション開
催～核融合から量子医療、ダークマター観測まで～

本学はJ-PEAKS事業の一環として「超伝導」をテーマとしたシナジーセッションを開催しました。九州大学の木須隆暢主幹教授と東川甲平教授が登壇し、核融合発電の鍵を握る超伝導マグネットの開発と将来展望やカーボンニュートラル社会への応用について講演されました。本学研究者からも、高温超伝導のエネルギー・医療応用やダークマター観測など多岐にわたる研究テーマについて発表があり、100人超の参加者による活発な交流を通じて新たな研究連携の可能性が広がりました。引き続き、本学のJ-PEAKSの取り組みにご期待ください。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15434.html

TOPICS
30松原忍事務職員が国の安全保障貿易管理事業のアド
バイザーに就任～高度専門資格「STC Expert」保有者
として大学支援に貢献～

本学研究・イノベーション共創管理統括部研究協力課の松原忍事務職員が、経済産業省の「令和8年度重要技術総合管理事業（安全保障貿易自主管理促進事業）」において、安全保障貿易自主管理促進アドバイザーに就任しました。松原事務職員は、安全保障輸出管理分野における専門資格である「STC Expert（安全保障貿易管理士（総合）」を取得している専門人材のひとりです。今後も職員の専門性向上を支援しつつ、高度化を図り、社会的要請に応じた適切な業務運営を進めます。開かれた地域中核・特色ある研究大学：岡山大学と松原事務職員の取り組みにご期待ください。



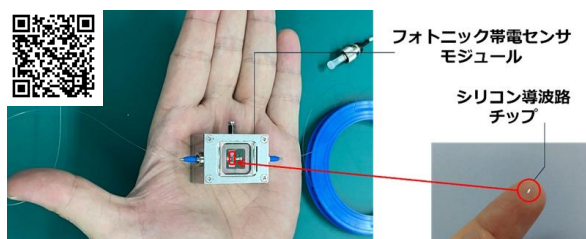
参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15460.html

TOPICS
31JAXA宇宙技術実証加速プログラムに選定～「フットニッ
ク帯電センサ」の宇宙実証へ～

大阪公立大学大学院工学研究科の小木曾望教授を代表提案者とし、本学の高橋和教授が共同提案者として参画する研究グループによる提案「学生主導のMBSEによる多機関連携型衛星開発及び先進的帯電・膜面計測技術の実証」が、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）の「JAXA宇宙技術実証加速プログラム（JAXA-STEPS）」2025年度の教育目的公募に選定されました。両大学は、学生主導の衛星開発を通じて、先進的な帯電・膜面計測技術の宇宙実証に取り組めます。また高橋教授は、人工衛星の帯電を光で検知する「フットニック帯電センサ」の開発と宇宙実証を推進します。本センサは、シリコンフォトニクスを基盤とする小型・軽量・低消費電力の帯電検知センサであり、宇宙機の静電気放電リスクを、センサから送られる光の強度変化から検知することを目指します。

本学と大阪公立大学はともにJ-PEAKS採択大学であり、さまざまな取り組みを協働で実施しています。今後も小木曾教授と高橋教授、そしてJ-PEAKS大学の取り組みにご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1562.html



イチオシの研究設備

LC-MS(Xevo TQ-S micro タンデム
四重極質量分析計, Waters社)

本学資源植物科学研究所では、過去15年間にわたりLC-MS装置を用いた植物ホルモンの一斉定量分析を実施してきました。これまでに実施した共同研究は400件を超えています。共同研究に参画してくださった皆さまにあらためてお礼申し上げます。これまで酷使に酷使を重ねてきたLC-MSは、この15年間の間にすっかり老朽化してしまいました。すでに、一部修理部品の供給がなくなり稼働の維持が危ぶまれておりました。今回、J-PEAKS事業の支援をいただき、LC部にAcquity UPLC、MS部に Xevo TQ-S microを持つWaters社のシステムが導入されました。これで、植物ホルモン定量による研究支援を継続することが可能となりました。



新しいLC-MSは感度が飛躍的に改善され、汚れにも強くメンテナンス性に優れています。新旧装置をフル活用して、皆様の研究を強力に支援します。

利用に際しては、当研究所の植物ホルモン解析チームのメンバーにお知らせください。また、本学研究設備機器共用システム「コアファシリティーポータル（CFPOU）」の以下のURLから詳細を閲覧可能です。

本学では、J-PEAKSの取組として、大型分析装置等の中四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化等を通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメッカを目指しています。

【管理者】

資源植物科学研究所 平山隆志、木羽隆敏、森泉、池田陽子
総合技術部 松浦恭和、北條優子、土屋善幸



本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちら：cfp@okayama-u.ac.jp

参考 <https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/1423>

